

空からなにが降ってくる。
 「なんだろう。」と思うと、
 おばあちゃんが、
 「これは火山灰だよ。」って
 教えてくれた。
 私は「ふうん」と思った。
 初めて見る火山灰。
 火山灰はくろいいる。
 火山灰は、さらさらしているけど、
 「こんな火山灰なんだあー」
 と思いました。

【壮瞥小学校 2年 近江梓】



1977年の噴火で噴煙から火山灰が降っている



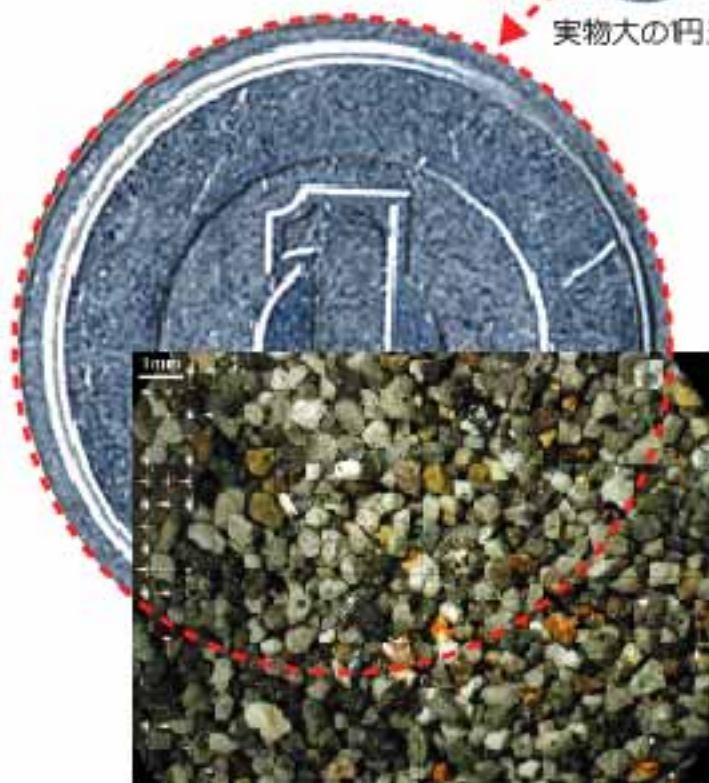
拡大

実物大の円玉

顕微鏡

顕微鏡で見る火山灰はきれいですが、
 火山灰が降ってくると、いやなこともたく
 さんあります。目は痛くなるし、家は汚れ
 るし...。もっとひどいこともあります。

けれども、有珠山の火山灰はよいことも
 しています。じつは、火山灰は、有珠山のま
 わりの土地で植物が育ちやすくしているの
 です。それは、火山灰がまじったことで、土
 がアルカリ性になっているからです。さらに、
 火山灰や軽石などのおかげで土の水は
 けもよくなっているのです。キャベツやメロン
 などがすくすくと育ちます。



2000年3月31日に降った火山灰

火山灰の恵み



伊達メロン

調べてみよう!

火山灰が土壤にまじったことで、
元気に育っている野菜は、日本中にあります。
どんな野菜か調べてみよう。

例えば、「つまごい孺恋キャベツ」「ふかや深谷ネギ」「さくらじま桜島ダイコン」は、
どの山の火山灰の混じった土の中で育っているのだろう。



『火山灰』噴火の時に、空から降ってくる灰のように細かいもの。この灰を少しくらいかぶったとしても、死んだりはしません。でも、10cm以上屋根に積もって雨水を吸収すると、木でできた古い家は、その重さでつぶれてしまうおそれがあります。

洞爺湖畔には、昔から温泉があったわけではありません。1910年の噴火によって、温泉が出るようになったのです。最初に温泉の宿ができたのは、その後です。その頃の温泉街の様子を見てみましょう。

『当時、この地を訪れた東北大学の教授、渡辺万次郎さんのお話』

私が初めて洞爺湖を訪れたのは、大正14(1925)年であった。

虻田から洞爺湖温泉に行く道は、小さな荷馬車用の道だけであった。湖畔についてみると、温泉宿は2軒のみ。洞爺湖温泉は、今とは違い、ひなびた温泉であった。宿で働いている人もおおざっぱなもので、「お湯が熱い」と文句を言うと「熱かったら入るな」と言い返されることもあった。当時の洞爺湖温泉は、今と違っては懐かしい、そんな素朴な温泉であった。

その後、温泉街は発展していきました。昭和の初めには洞爺駅から鉄道がひかれ、多くの観光客や修学旅行生が訪れるようになりました。



1927年、洞爺湖温泉開祖の『竜湖館』入浴風景



鉄道が通った頃の温泉街。湖上には向洞爺(現在の洞爺村)から入浴客を運んだ船が見える



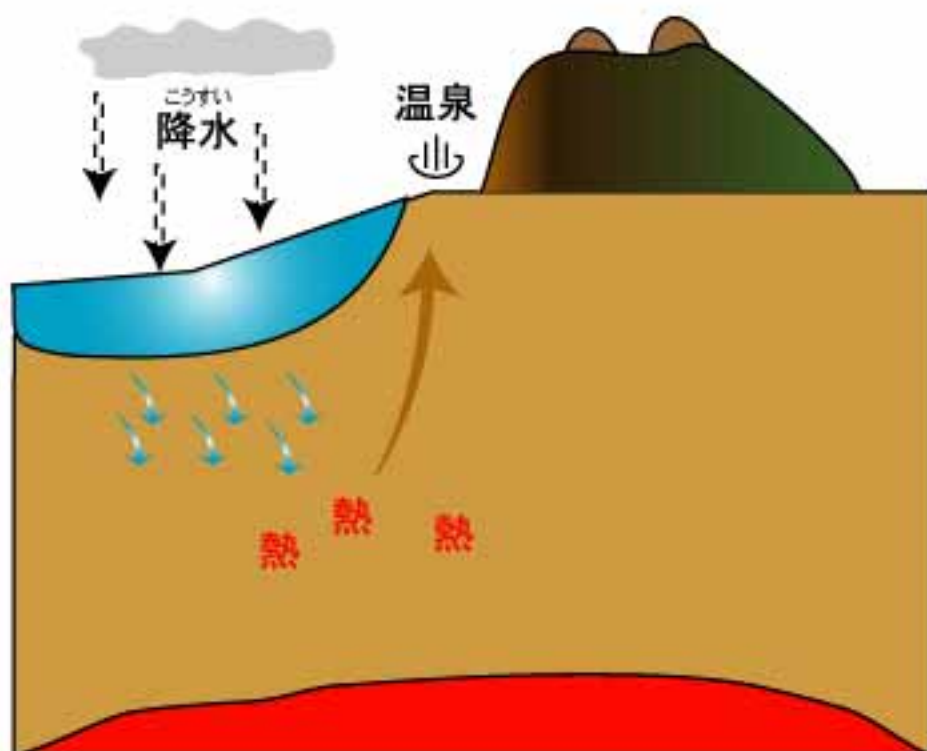
温泉が生まれるまで、そして生まれてからも様々な歴史があったんですね。

温泉は、どのようにできているのでしょうか？

温泉は、どのようにできているのでしょうか？



洞爺湖の湖水や雨水は、地面にしみこみます。この水が、地下でマグマに温められてお湯になり、地表に湧き出たり、くみ上げられたりしたのが温泉です。噴火の時にマグマが上がってくると、地下水がいつもより温められて、温泉の温度が高くなります。実際、2000年噴火の後には、温度が5～24度も上がりました。



温泉の湧くしくみ

調べてみよう！

洞爺湖温泉には、日本中の修学旅行生や観光客がやってきます。どれくらいの人たちが来ているのか調べてみよう。



『潜在ドーム』噴火の時に上がってきたマグマが、地表に出ずに、地面を盛り上げたもの。四十三山、有珠新山そして2000年噴火の西山山ろく火口付近の盛り上がりは、こうしてできました。



調べてみよう!



有珠湾にやってくる白鳥

白鳥は、ふつうは淡水の湖にしか飛んで来ません。
それなのにどうして、塩水の有珠湾にやって来るのだろう?

- ①白鳥は、有珠湾のホタテが大好物だから。
- ②昔、伊達家の殿様が、白鳥を大切にしたら。
- ③有珠山の下から真水が流れこんでいるから。



そのほかにも有珠山のまわりには、様々な生きものがいます。



エゾモモンガ



カワセミ



エンレイソウ



ゴイソウジミ



シナノキ



エゾシカ

有珠山の生きもの



『外輪山』大きめの火口やカルデラの中に小さな火口や火山体ができ、外側の火口の縁やカルデラを外輪山と言います。